

「卓越した業績(Performance Excellence)」を目指して

—開倫塾の創業・現在・これからの課題とは—

開倫塾
塾長 林 明夫
(足利商工会議所 議員)

あとでお読みになりやすいように、Q and Aの形で本日の講義資料を作りました。御活用ください。

Q 1 : 本日の2時間半にも及ぶ講義の目的は何ですか

A : 次の3点を皆様と考え、御参加の皆様の「成功の実現」にお役に立てればと考えます。

- (1)創業期をどのように乗り切るか
- (2)会社らしいしくみづくりとは
- (3)創業者、リーダーとしてなすべきことは何か

*本日は以下のような内容でお話をしますが、参加者は十数名と極めて少人数ですので、これ以外の内容をお聞きになりたい方は予めお教えください

Q 2 : 開倫塾の創業に至る経緯をお話ください

A : (1)大学生時代、大学の研究室生時代のアルバイトが学習塾と予備校講師、家庭教師(いわゆる「プロ講師」)であったこと
(2)大学の刑事政策のゼミで矯正施設に行ったとき、「受刑者の大半は、学校などでちゃんと勉強していればこんなところに来なくても済んだのに」と多くの刑務官から教えられたこと
(3)もともと勉強を教えるのが好きだったこと

Q 3 : 創業から株式会社設立までの5年間はどのような状況でしたか

A : (1)365日、年中無休。眠る時間以外、授業の準備と仕事
(2)少しずつだが増え続ける塾生、急激に増え続けるありとあらゆる業務
(3)周囲の方々に支えられ、助けられ、感謝、感謝の毎日

Q 4 : 創業から5年間にしたほうがよいことは何ですか

A : (1)とにかく仕事を軌道に乗せること。大切なことはやり抜くという「執念」
(2)自分の仕事は何か、顧客は誰かをはっきりさせること
(3)顧客の問題解決のためにできることはすべて行い、信用を得、リピーターになってもらうこと
*「やらないこと」を決めること

Q 5 : 株式会社設立から5年間にしたほうがよいことは何ですか

A : (1)企業としての社会的使命、経営理念、経営方針、事業領域(事業ドメイン)、顧客の定義などを考え、明文化。社内に浸透させること
(2)作業の標準化とマニュアルづくり、人材づくりのしくみを考えること。その上で、定期採用、研修、任用、待遇改善を少しずつ行うこと

(3)未上場企業であっても四半期決算を行うこと。コツコツと資本金をため、自己資本比率を30%以上にするように心がけること

Q 6 : 経営を学ぶのに参考になる本を紹介してください

- A : (1)「ドラッカー」、「コトラー」、「ポーター」の3人の先生の本は必読です。やさしい本から少しずつ毎日コツコツとお読みください
(2)「放送大学」の「経営学」の教科書は極めて役に立ちます。足利市生涯学習センターに「放送大学」の学習センターがあります
(3)日経文庫や新書本にも経営の本はたくさんあります。「足利学校」ゆかりの本としては「論語」、「貞観政要(じょうがんせいよう)」、「孫子」が有用

Q 7 : マーケティングの4Pとは何ですか。また、各々の顧客にとっての意味とは何ですか

- A : (1)Product(製品・サービス) ……顧客の問題解決
(2)Cost(価格) ……顧客の負担
(3)Place(立地・流通) ……顧客の利便性
(4)Promotion(販売促進・広報) ……顧客とのコミュニケーション
*コトラーの「マーケティング・マネジメント」で「マーケティング」の学習を

Q 8 : トレード・オフとは何ですか

- A : (1)「選択と集中(何をやり、何をやらないか)を徹底すること」
(2)「優先順位を決めること」
(3)「やらないことを決めること」
*マイケル・ポーターの「競争戦略」で「戦略論」の学習を

Q 9 : 経営者としての勉強はどのように行いましたか。また、行っていますか

- A : (1)足利商工会議所、足利5S学校、商工中金足利支店ユース会、富士銀行・長銀総研(当時)などでの経営の勉強
(2)栃木県経済同友会、栃木県産業協議会、栃木県生産性本部、栃木県経営者協会、群馬経済同友会、福島経済同友会などの経済団体などで活動と経営の勉強
*現在は東京の公益社団法人経済同友会が活動と勉強の中心
(3)同業他社、異業種の方々との国内外での「視察」(ベストプラクティスのベンチマーキング)や「勉強会」。国内外のコミュニティ・カレッジ、大学、大学院での「経営」の勉強。宇都宮大学工学部のアカデミアホールで毎週水曜日19:00~20:30に行われている「とちぎMOT(技術経営)プログラム」は極めて有用
(4)World Economic Forum(世界経済会議)東アジア版、OECDのセミナーやフォーラム

Q 10 : せっかくですので、開倫塾の概要をお話ください

- A : (1)小中高生対象の学習塾。セミナー(集団)指導と個別指導
(2)栃木県、群馬県、茨城県に60校舎展開。この夏3校舎開校。開校は創業と全く同じ
(3)塾生数はピーク時で7000名。教え方日本一を目指す
*自分の行きたい学校を一流校と定義。「一流校合格率100%を目指す」

Q 11 : 開倫塾の現在の課題は何ですか

- A : (1)68校舎の壁を越えるまでに「標準化」への取り組みのしくみづくりを完了し、100校舎(3ヶタ校舎)を目指すこと
(2)低価格競争に陥らない「学習サービス」の開発

— 教育の質とは —

- | |
|-----------|
| ①カリキュラムの質 |
| ②先生の質 |
| ③マネジメントの質 |

(3) 「学習サービス」 機関としての「経営品質」の向上

① 「顧客本位」、② 「独自能力」、③ 「社員重視」、④ 「社会との調和」の実現

Q12 : 開倫塾のこれからの課題は何ですか。開倫塾をどのような企業にしたいですか

A : (1) 教え方日本一を目指す「学習サービス」に特化した企業

(2) 「水平展開」 教え方日本一を目指す開倫塾を北関東(栃木・群馬・茨城)のすみずみに。海外展開

(3) 「自律的に活動する能力」をもつ「人材の育成」、人づくり。「出入り自由」、「85歳過ぎまで働ける」職場づくり

Q13 : 最後に、林さんの好きなことばは何ですか。好きなことばの紹介を通して、創業期を乗り切り、会社らしいしくみづくりをするためのリーダーとしての心構えをできるだけ具体的にわかりやすくお話しください。

A : (1) 「よいことをして忘れること」 (京都一燈園 石川洋)

「本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」 (同上)

(2) 「初心忘るべからず」、「離見の見(りけんのけん)」 (世阿弥)

(3) 「歴史における個人の役割」 (プレハーノフ)

(4) 「持続する志」 (大江健三郎)

(5) 「励まし合う仲間づくり」

(6) 「目には遠いが心は近い」 (インドのことわざ)

(7) 「教育ある人とは(一生)勉強し続ける人」 (ドラッカー)

*ドラッカーの著作で「リーダーシップ」の学習を

(8) 「一生勉強、一生青春」 (相田みつを)

(9) 「本は6回読む」

(10) 「健康第一(心の健康、身体健康)」

(11) 「いつまでも若々しく生きる」 (中村天風)

(12) 「自然と精神」 (ベイトソン)

御参考まで(学校時代に学んだことば)

(1) 「小学4年生は、新聞を毎日読むこと」 (山辺小学校クラス担任、岡典子)

(2) 「ブルドッグ魂(食いついたら離すな)」 (山辺中学校クラス担任、岡田忠治)

(3) 「練習で泣いて、試合で笑え」 (山辺中学校柔道部長、椎名弘)

(4) 「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組むこと)」 (足利高校 マラソン大会)

(5) 「法律を学んだ人(法学徒)は、いつも最悪のことを予測して行動すること」 (慶應義塾大学教授、峯村光郎)

(6) 「注意一秒、ケガ一生」 (慶應義塾大学教授、宮沢浩一)

(7) 「スポーツで得られる3つの宝」 (慶應義塾塾長、小泉信三)

① 「練習は不可能を可能にする」

② 「フェアプレー」(ルールの中でプレーをする。いやしいプレーはしない)

③ 「よき友」

以上

御清聴を感謝申し上げます。御質問、御意見があれば、御自由に御発言ください。

御参考

「開倫塾の学習の3段階理論」とは何かを、開倫塾の塾生の皆様のために30年以上かけて私がまとめたものです。御参考までにお読みください。2013年7月2日

「学習の3段階理論」を正確に身に付け、 自分自身の学力を自分の力で大幅に向上させよう

塾長 林 明夫

Q：「学習の3段階理論」とは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)学習の仕方がよくわからなくて困っている人があまりにも多いので、学力向上のための効果の上がる学習方法、勉強の仕方として、私が30年以上かけてまとめ上げた考え方です。

「学習」を「理解」、「定着」、「応用」の3つの段階に分け、それぞれの勉強の仕方を工夫しながら、学力を確実に上げる勉強方法です。

Q：学力は本当に上がるのですか。

A：本当かどうかは、この方法で勉強に取り組んだ方に聞いてみてください。学力が向上したという答えが多くの方から返ってくると思います。

Q：そうですか。そこまで言うのなら、試しにやってみようかな。では、お聞きします。第1段階の「理解」とは何ですか。

A：(1)よく質問してくださいました。ありがとうございます。「理解」とは、学習した内容が「うん、なるほど」と「よくわかること」、「腑(ふ)に落ちること」です。

(2)この「理解」には、学校や塾などの先生の授業を聴いてよくわかる場合と、教科書や参考書などを自分で勉強してよくわかる場合の2つがあります。

(3)学校や塾などで先生から教えていただいて「理解」するときのポイントは、「手を机の上に置き、先生の目を見て、先生の教えてくださることを熱心に聴くこと」です。「先生の指示に従って、授業に熱心に参加すること」も大切です。「授業中に大切と思われることはノートにどンドン取り続けること」も、とても大切です。

(4)授業中に先生がいくら熱心に教えてくださっても、「欠席」や「遅刻」、「早退」、「居眠り」、「おしゃべり」、「ケータイ」をしたり「ボーッと他のことを考えている」のでは「理解の妨げ」になりますから、避けましょうね。

(5)自分で学校や塾の教科書・教材などを勉強して「理解」するときのポイントは、学校や塾の先生から授業を受けるときと同じ熱心さで、一行一行、一語一語、ゆっくりとかみしめながら、「ああ、これはこういうことなのか」とよくわかるまで、何回も繰り返して文章を読むことです。

(6)意味のわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と思い、「辞書」や各科目の「用語集」、学年別の「参考書」で意味を調べ、調べたことは科目別の「意味調べノート」に必ず記入しておくことです。

(7)「予習は何のためにするのか」と、考えたことがありますか。私は、「予習はよくわからないところをはっきりさせてから授業に臨むためにするもの」と考えます。教科書や問題集を自分でよく読み、書かれていることがどのような意味なのかをまずは自分の力で考える。問題を自分の力でノートに解いてみる。自分で考えてどうしてもわからないところがあれば、辞書や科目別の用語集、学年別の参考書で調べる。その結果はノートに書いておく。それでもわからないときは、友達に聞いたり、学校の図書室や近くの図書館で調べたりする。インターネットでも調べてみる。このようにして「何がわからないかをはっきりさせてから学校や塾の先生の授業に臨むことが、予習をする意味だ」と私は考えます。この「予習の仕方」は、よく身に付けると高校や大学、大学院で、また、社会に出てから役に立ちますよ。

以上が、第1段階の「理解」のポイントです。

Q：第2段階の「定着」とは何ですか。

A：「定着」とは、「うん、なるほど」とよく「理解」したことを、「スミからスミまで」正確に「身に付ける」ことです。この「定着」のポイントは3つあります。

(1)1つ目のポイントは、学校や塾の授業でよく「理解」した教科書やテキスト、授業のときに取ったノート、各科目別の意味調べノートなどを大きな声を出して読むこと、つまり「音読」することです。音読で大切なのは、「書いてあることが自由自在にスラスラと読めるようになるまで何回も、何十回も、何百回も読む練習をすること」です。これを「音読練習」と言います。「音読練習」を繰り返し行う間に、書いてあることをスミからスミまで全部覚えてしまうことも大事です。

この「音読練習」だけでも、学力は相当向上します。「音読練習」をして一度身に付けたことの多くは、一生忘れません。

(2)2つ目のポイントは、「よく書けないような語句や図は、すべての科目とも手が覚えてしまうくらいまで書く」、「書き取り練習」を徹底的に行うことです。「書き取り練習」が大事なのは、国語の漢字や英語のスペリング(綴り字)だけではありません。数学の公式や社会の地名・人名・出来事・憲法の条文、理科の図や公式、音楽の楽譜など図表も含め教科書などに出ていることすべてを正確に書けるまでにすることが大事です。その学年で学んだことは、その学年の間にすべて正確に書けるまで練習に練習を重ねましょう。

この語句の「書き取り練習」は、一生に一回、今このときにだけ行うものだと考え、手が痛くなるくらいまで行ってください。このようにして体を使って身に付けたものの多くは、一生忘れません。「書き取り練習」をしない限り、いつになっても覚えられない語句は山ほどあります。この「書き取り練習」は、社会に出てからも続けてくださいね。

(3)3つ目の「定着」のポイントは、「計算・問題練習」をすることです。一度解いた問題を何度も解き直し、なぜそのような正解になるのかが十分に「理解」できたらどうするか。その計算や問題を見た瞬間に正解がパッパッパッと出てくるまで何回も「計算・問題練習」を繰り返すことです。

定期テストや模擬試験、本番の入学試験などでは、問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出る問題が多ければ多いほど、初めて解く問題や難しい問題をじっくりと考えながら解くことのできる「時間の余裕、ゆとり」が生まれます。

(4)私は、これらの「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を「定着のための3大練習」と名づけました。学力が高いと言われる人ほど、一度「理解」した教科書や教材、意味調べノート、授業中のノートなどの内容を「定着のための3大練習」によりスミズミまで正確に身に付け、あらゆるテストで高い点数を取り続けています。「練習は不可能を可能にする」ということばがあります。「定着のための3大練習」は、「不可能を可能」にします。以上が第2段階の「定着」のポイントです。

Q：第3段階の「応用」とは何ですか。

A：(1)「応用」とは、「理解」「定着」したことを用いて「テストでよい点数が取れる」とことと、社会で役に立てることです。

(2)よい点数とは、定期テストでは100点、模擬試験では希望校に合格できる偏差値、入学試験では合格点を意味します。

(3)よい点数を取るためには、過去に出題された問題や予想問題を5年分、同じ問題を5～6回繰り返してやってみることで。

(4)間違えた問題は、すべて「間違いノート」に記録し、なぜ間違えたかを納得いくまで十分に研究することです。

(5)ただし、学校の定期テストでしたら、十分に「理解」したあと、「定着のための3大練習」を確実にやり、スミからスミまで正確に身に付けるだけで高得点、多くの場合100点満点が取れます。

(6)以上が、第3段階の「応用」のポイントです。是非、本気でやってみてくださいね。

以上